

教科・科目別年間指導計画

| 教科 | 科目 | 単位数 | 指導学年 | 教科書名 | 副教材名等 |
|----|-----|-----|------|---------------------------|--|
| 国語 | 現代文 | 2 | 2年 | 改訂版 高等学校現代文 (第一学習社) | 「新訂最新国語便覧」 浜島書店 「漢字検定プラス」 桐原書店 「入試頻出漢字TOP2500」 いっずな書店 「LT2現代文」 浜島書店 「日本文学史必携」 第一学習社 |

| | |
|----------------------------|---|
| 到達目標 | 国語総合の現代国語の学習内容をふまえ、近代以降の文章の鑑賞力・読解力を深めるとともに、独自の思考・感受性を養いそれを適切な言葉で表現できるようにする。 |
| 到達目標に向けての具体的な取り組み【指導上の留意点】 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを深めながら、目的に応じて様々な文章を精読し、的確に読み取る読解力をつける。 ・自らの問題意識を持ち、意見文・感想文・発表など、自己の考えを的確に表現できる力を養う。 ・語彙ノート、小テスト等で、的確な表現に必要な語句の意味、表記の仕方を理解し、語彙力を養う。 ・適宜、読書指導を行い、できるだけ多くの文章に触れる。 |

| 月 | 速度 (単元・章・項) | 指導内容 (項目/活動) | 評価方法等 | 評価のポイント |
|----|-------------------------|---|---|--|
| 4 | 「考える楽しみ」 西 研 | 1学期前半は評論教材を扱い、論理的思考力・読解力を養う。 『考える楽しみ』では哲学についての平易な文章を読み評論に慣れ、『手の変幻』では文章の構成・展開の方法とその内容との関連に注意し、筆者の主張を読みとる。 小説教材では、近代の代表的な作品から現代の作品まで、幅広くふれ、そこに描かれる人物のあり方を深く考えさせる。 1学期は『山月記』、3学期では『こころ』を扱い、近代小説の名作を読み、そこに描かれる人物のあり方を時代背景とともに深く考えさせる。 韻文教材では近現代の代表的作品を扱い、作者が作品にこめた思いを鑑賞する。 2学期からの評論教材では、論理的思考力・読解力の定着を目指す。文章の構成・展開に従い、筆者の主張を読みとるとともに、その主張に対する自己の考えを持てるようにする。 *語句の意味調べ、下読みをして疑問点を挙げておくなど予習を徹底する。 *適宜、読書指導を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ノート ・語彙ノート ・課題提出 ・漢字小テスト ・感想文・意見文等の提出 ・定期考査 (文学史テストを含む) | <ul style="list-style-type: none"> ・意味調べ等の課題をきちんとしているか。 ・授業をよく聞き、大事なところをノートにまとめられているか。 ・文章の内容を正しく理解しているか。 ・漢字力・語彙力が定着しているか。 ・主体的な自己の読解を試みているか。 ・自己の意見、感想などを適切に表現できているか。 ・自分の主張を正確な言葉で話すことができるか。 |
| 5 | 「手の変幻」 清岡 卓行 | | | |
| 6 | 「山月記」 中島 敦 | | | |
| 7 | 「この村が日本で一番」 内山 節 | | | |
| 8 | | | | |
| 9 | 詩「わたしが一番きれいだったとき」 茨木のり子 | | | |
| 10 | 詩「永訣の朝」 宮沢賢治 | | | |
| 11 | 「日本人の「顔」」 中西 雅之 | | | |
| 12 | 「妖怪と現代文化」 小松 和彦 | | | |
| 1 | 「こころ」 夏目 漱石 | *適宜、読書指導を行う。 | | 【副教材の使用について】 ・「入試頻出漢字TOP2500」については、週1回小テストを行う。 ・「日本文学史必携」「LT2現代文」は範囲を区切って学習させ、定期考査に出題し、確認する。 |
| 2 | 実用の文章 | | | |
| 3 | | | | |

古典（2年）

| 教科 | 科目 | 単位数 | 指導学年 | 教科書名 | 副教材名等 |
|----|----|-----|------|----------------|---|
| 国語 | 古典 | 3 | 2年 | 精選古典 (東京書籍) | 「新訂 最新国語便覧」 浜島書店 「必携古典文法」 中央図書 「日本文学史必携」 第一学習社 「新標準古文単語」 文英堂 |

| | |
|---------------------------|--|
| 到達目標 | 国語総合の古典の学習内容をふまえ、基礎・基本の更なる定着を図り、読解力を深めるとともに、古文・漢文の幅広い文章にふれ、先人の感性を知り、自らのものの見方、感じ方、考え方を広げる。 |
| 到達目標に向けての具体的な取組み【指導上の留意点】 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 古文では1年で学んだ文法事項の定着を図り、助動詞や敬語、和歌の技法等についての理解を深める。 ・ 漢文では、語法、句法に慣れさせ、長文の作品が読めるようにする。 ・ 音読、暗唱などを通して、文語特有のリズムや響きを味わい、楽しませる。 ・ 小テスト、ノート作成課題等で古典読解に必要な語彙力を養う。 |

| 月 | 速度 (単元・章・項) | 指導内容 (項目/活動) | 評価方法等 | 評価のポイント |
|----|------------------------------|---|---|---|
| 4 | 伊勢物語 「渚の院」 敬語の用法 助詞 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 1年次に学習した古典文法の定着を図るとともに、新たな文法事項について理解する。 ・ 小テスト等で重要古語を覚え、身につける。 ・ 古典文法をおさえて、自分で文章を読んでいけるようにする。 ・ 漢詩のきまりについて理解し、唐代の代表的な詩人の作品にふれる。 ・ 漢文の語法、句法に慣れさせ、長文の作品が読めるようにする。 ・ 作品の時代背景を知り、筆者のものの見方、感じ方、表現の仕方を理解する。 ・ 作品を読むための準備をして授業に臨む態度を身につけさせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ノート ・ 課題提出 ・ 古文単語小テスト ・ 感想文提出 ・ 音読・暗唱テスト ・ 定期考査 (文学史テストを含む) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 古語辞典・文法書などを活用し、語句の意味調べや現代語訳など予習ができているか。 ・ 授業への主体的な取り組みがなされているか。 ・ 文章の内容を正しく理解しているか。 ・ 古文の基礎知識が定着しているか。 ・ 作品成立の背景を文学史の中でとらえられているか。 ・ 漢文の基礎知識が定着しているか。 ・ 音読、暗唱が流暢になされているか。 ・ 事後学習に活用できるノート作りができてきているか。 |
| 5 | 唐詩 三編 漢詩のきまり | | | |
| 6 | 更級日記 「門出」「物語」 | | | |
| 7 | 助詞・名詞・副詞・連体詞 漢文 「桃花源記」 | | | |
| 8 | | | | |
| 9 | 源氏物語 「光源氏の誕生」 | | | |
| 10 | 枕草子 「宮に初めて参りたるころ」 | | | |
| 11 | 史記 「鴻門之会」 | | | |
| 12 | 方丈記 「ゆく河の流れ」 | | | |
| 1 | 大鏡 「花山院の出家」 「道長、伊周の競射」 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 作品を読むための準備をして授業に臨む態度を身につけさせる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 「新標準古文単語」については、週1回小テストをおこなう。 ・ 「日本文学史必携」は範囲を区切って学習させ、定期考査に出題し、確認する。 ・ 「必携古典文法」については、授業の際に使用するとともに、掲載されているチェック問題をレポート課題として与え、習熟・定着を図る。 | |
| 2 | | | | |
| 3 | 韓非子 「侵官之害」 | | | |

古典講読（2年）

| 教科 | 科目 | 単位数 | 指導学年 | 教科書名 | 副教材名等 |
|----|------|-----|------|----------------------------------|---------------------------|
| 国語 | 古典講読 | 2 | 2 学年 | 高等学校古典講読 源氏物語・枕草子・ 大鏡（三省堂） | プログレス 古典総演習（いわずな書店編集部） |

| | |
|----------------------------------|--|
| 到達目標 | 1 学年で学んだ古典の基礎・基本の定着を図り、幅広い文章に数多く触れて、読解力を深める。また古典としての古文を読むことによって我が国の文化と伝統に対する関心を深め、生涯にわたって古典に親しむ態度を育てる。 |
| 到達目標に向けての 具体的な取組 【指導上の留意点】 | ①基本的な言語事項（古語、文法）を調べ、現代語訳まで書くことを予習課題とする。 ②古文を暗唱する。 ③王朝文学の背景となった平安時代の風俗・習慣・政治などを調べ、発表する。 |

| | 学習内容 | 指導内容 | 評価方法等 | 評価のポイント |
|----|-------------------------------------|--|---|---|
| 4 | 大鏡 序 雲林院の菩提講 菅原道真 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史物語の代表である『大鏡』を読み味わい、歴史を動かした人物たちの躍動的な姿を実感する。 ・ 当地域にもゆかりのある菅原道真の心情を和歌や漢詩を通じて理解する。 ・ 藤原氏内部の権力争いの激しさと、その折の登場人物の心情を理解する。 ・ 自信に満ちた道長の強さを読み味わう。 ・ 自分の好きな古文を暗唱し、発表する。 ・ ものづくしの章段の読解を通して筆者の観察の特徴や自然に対するとらえ方を理解する。 ・ 登場人物と筆者のやりとりを通して、作者の描く宮中世界を理解する。 ・ 『枕草子』の成立や流布の経緯を理解する。 ・ 平安時代の風俗習慣政治について調べる。 ・ 物語文学の代表作である源氏物語を読み味わい古文の深さを理解する。 ・ 文法事項でも特に敬語に注目し、登場人物の人間関係を把握する。 ・ 光源氏と藤壺、紫の上、女三宮を軸とする女性遍歴に焦点を当てて源氏物語の一面を理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の予習 ・ 音読 ・ 授業ノート ・ 課題提出の状況 ・ 学習活動への参加の姿勢 ・ 定期考査 ・ 筆記テスト ・ 発表 ・ レポート ・ 発表 ・ 宿題 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 古語の意味を調べ、その意味用法を理解しているか。 ・ 文法的事項を正確に把握しているか。 ・ 適切な現代語に置き換えられているか。 ・ 登場人物の心情が理解できているか。 ・ 作品の文学史的位置づけが理解できたか。 ・ 古文として、うまく暗唱しているか ・ 提出状況など |
| 5 | 東風吹かば 都府楼の鐘 | | | |
| 6 | 藤原師輔 百鬼夜行 藤原氏の相克 最後の除目 | | | |
| 7 | 藤原道長 強運 | | | |
| 8 | 古文の暗唱 | | | |
| 9 | 枕草子 | | | |
| 10 | 春はあけぼの すさまじきもの ありがたきもの | | | |
| 11 | 頭の弁の職に参り給ひて この草子、目に見え心に 思ふことを | | | |
| 12 | 源氏物語 | | | |
| 1 | 桐壺 高麗人の観相 若紫 北山の垣間見 紅葉の賀 皇子参内 | | | |
| 2 | 明石 嵐の夜 薄雲 母子の別れ 若菜上 女三宮の降嫁 | | | |
| 3 | 柏木 五十日の祝ひ 幻 形見の文 | | | |
| | (適宜) 問題演習 | | | |

世界史A

| | | | | | |
|----------------|------------|----------|-----------|--------------------------|-------------------------|
| 教科 地理 歴史 | 科目 世界史A | 単位数 2 | 指導学年 2 | 教科書名 要説世界史 (山川出版社) | 副教材名等 アカデミア世界史(浜島書店) |
|----------------|------------|----------|-----------|--------------------------|-------------------------|

| | |
|------------------------------|--|
| 到達目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化・多様化する現代世界を理解するために、過去の歴史を学ぶことにより今日の国家・地域がどのように形成され、どのような課題に直面しているかを考えさせる。 ・個々の事象の原因、結果、歴史の中での意味を考察することにより、歴史的思考力を養い、さらに現代社会を客観的に考えられる力を養う。 |
| 到達目標に向けての具体的な取組 【指導上の留意点】 | <ul style="list-style-type: none"> ・重要な歴史事項をしっかりと覚え、さらにその暗記だけにとらわれぬよう、事項間の因果関係や歴史上の意味の説明にも時間をとる。 ・単なる抽象的知識にとどまらぬよう、プリントごとに地図等の作業も取り入れ、歴史を空間的にも認識させて立体的な学習をめざす。 |

| 月 | 速度(単元・章・項) | 指導内容(項目/活動) | 評価方法等 | 評価のポイント |
|----|--|---|--|---|
| 4 | 第2章 一体化に向かう世界(I) 1. アジアの伝統的諸帝国 | <ul style="list-style-type: none"> ・中華世界の再編 ・イスラーム世界の再編 ・ルネサンスと宗教改革 ・ヨーロッパ世界の拡大 ・近代主権国家の成立 ・重商主義と植民地 ・オランダの独立と繁栄 ・英仏間の植民地争奪 | 「関心・意欲・態度」「技能・表現」「知識・理解」「思考・判断」の各観点に基づき、下記の点により総合的に評価する。 ・プリント・課題提出 | <ul style="list-style-type: none"> ・プリント・課題をきちんとしているか ・授業をよく聞き、大事なところをメモできているか。 ・集中して授業を受けているか |
| 5 | 2. ヨーロッパの主権国家体制 | | | |
| 6 | 3. 世界商業の展開 | | | |
| 7 | 第3章 一体化に向かう世界(II) 1. 欧米諸国における国民形成 | <ul style="list-style-type: none"> ・産業革命 ・アメリカ独立革命 ・フランス革命とナポレオン | ・授業における取り組み ・出席状況 | |
| 9 | 2. アジア諸国の変容 3. 列強による世界分割 4. 諸民族の抵抗運動 | <ul style="list-style-type: none"> ・ヨーロッパ市民社会の成立 ・自由主義・国民主義の進展 ・アメリカ大陸の動向 ・国際化の進展 ・19世紀の欧米文化 | ・定期考査 | |
| 10 | | | | |
| 11 | | | | |
| 12 | | | | |
| 1 | 第4章 20世紀の世界 1. 地球世界の成立 | <ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦と世界 ・第二次世界大戦と世界 | | |
| 2 | 2. 世界戦争の展開と民族運動 | | | |

16枚のうち

教科・科目別年間指導計画

| 教科（科目） | 単位数 | 指導学年 | 教科書名 | 副教材名等 |
|--------|-----|------|--------------------|---------------|
| 日本史A | 2 | 2 | 実教出版 高校日本史A 新訂版 | 山川出版社 詳説日本史図録 |

| | |
|----------------------------------|--|
| 到達目標 【学習指導要領】 | 近現代史を中心とするわが国の歴史の展開を，世界史的視野に考察させること によって，歴史的思考力を培い。また，国際関係の中の日本を中心に据えながら， わが国の文化と伝統についての認識を深め，国民としての自覚と国際社会に生きる 日本人としての資質を養う。 |
| 到達目標に向けての 具体的な取組 【指導上の留意点】 | 基本的には板書、プリントを用いた講義形式により、重要な歴史事項を把握さ せる。必要に応じて視聴覚教材も活用する。 授業プリントには、地図などを入れ空間的認識をさせて、不完全な部分がない か点検し、歴史的因果関係を理解をしているか確認する。 |

| 月 | 速度（単元・章・項） | 指導内容（項目／活動） | 評価方法等 | 評価のポイント |
|----|-----------------------------|-------------------------|---|---|
| 4 | 第1章 大日本帝国の誕生 幕藩体制の動揺と開国 | 欧米列強の接近と開国 による社会の変動 | 「関心・意欲・態度」 「技能・表現」 「知識・理解」 「思考・判断」 の各観点に基づ き、下記の点によ り総合的に評価す る。 ・ノート ・提出物(プリン ト等) ・小テスト ・授業への取組み や集中度 ・定期考査 | 各単元の基本的事項 が定着しているか授業 ・考査・プリント演習 を通じて評価する。 考査以外に、授業へ の参加の姿勢を重視す る。特にプリントへの 書き込み（担当教員が 授業中に言った重要な こと）を重視する。 授業中は、教科書の他 に「図表」や「史料集」 をたびたび参照するが、 必ず指示されたところ は見るように指導する。 |
| 5 | 幕府の倒壊と明治維新 | 幕末の政治過程と明治 新政府の成立 | | |
| 6 | 文明開化と地租改正 | 明治政府による様々な 改革 | | |
| 7 | 富国強兵と新政府の外交 | 殖産興業や近隣諸国に 対する外交政策 | | |
| 8 | 自由民権運動と帝国憲法 | 国会開設運動と政府に よる憲法体制の成立 | | |
| 9 | 日清戦争と日露戦争 | 条約改正交渉から日清 日露戦争とその結果 | | |
| 10 | 第2章 大日本帝国の展開 朝鮮植民地化と大正政変 | 朝鮮の植民地化と護憲 運動による政変 | | |
| 11 | 第1次世界大戦と日本 | 第1次大戦と日本資本主 義の成長 | | |
| 12 | 米騒動と大正デモクラシー | 大戦後の様々な社会運 動の発展 | | |
| 1 | 普通選挙法と治安維持法 | 大正デモクラシーの限 界と治安維持法 | | |
| 2 | 満州事変と日中戦争 | 日本の中国への侵略戦 争 | | |
| 3 | 第2次世界大戦と日本 | ファシズム連合の形成 と戦争の拡大 | | |
| 1 | アジア太平洋戦争 | 「大東亜共栄圏」の実 態と国民生活 | | |
| 2 | 第3章 日本国憲法と現代世界 戦後世界と日本 | 敗戦とアメリカの占領 政策 | | |
| 3 | 戦後アジアと日本・アメリカ | | | |

数学Ⅱ

| 教科 (科目) | 単位数 | 指導学年 | 教科書名 | 副教材名 等 |
|----------|-----|------|-----------------|--|
| 数学 (数学Ⅱ) | 4 | 2学年 | 改訂版 新編数学Ⅱ(数研出版) | 改訂版 チャート式解法と演習 数学Ⅱ(数研出版) 4TRIAL 数学Ⅱ(数研出版) |

| | |
|---------------------------|--|
| 到達目標 | <p>数式や演算を、意味を持ったものとして理解する。 図形と多項式 (方程式) の演算を統一的に捉え対応関係を理解する。 値の変化と演算の両方の面から関数を把握し、具体的な関数 (多項式関数、三角関数、指数関数、対数関数) の運用に習熟すると共に、変化の様子を詳しく捉えられるようにする。</p> |
| 到達目標に向けての具体的な取組 (指導上の留意点) | <p>様々な具体例を通し、基本概念が把握できるよう説明し、種々の公式について、単なる暗記ではなく意味を理解できるようにする。 基礎的な事柄から、やや発展的な問題に至るまで、いろいろな題材を用いて、学習者の関心を高めるようにすると共に、副教材を有効に活用し、考え方の具体的運用に習熟できるようにする。</p> |

| 月 | 単元・教材名 | 指導内容 | 評価方法 | 評価のポイント |
|-----|---|--|--|--|
| 4 | 第1章 式と証明 第1節 式と計算 第2節 等式と不等式の証明 | 多項式の除法 恒等式、等式・不等式の証明 | <p>「関心・意欲・態度」 「技能・表現」「知識・理解」「思考・判断」の各観点に基づき、定期考査の成績の他、授業や課題への取り組みの状況も重視し、総合的な評価を行う。</p> | <p>評価のための評価に陥らず、学習者の意欲を引き出すような評価を行うようにする。</p> <p>考査は、学習者の取り組み経過と達成度が多面的にはかれるように、出題の工夫をする。</p> <p>日常の取り組み状況については、一律の機械的な尺度ではなく、学習者個々の状況に即した、きめ細かな評価につとめる。</p> |
| 5 | 第2章 複素数と方程式 第1節 複素数と方程式の解 第2節 高次方程式 | 複素数、解と係数の関係 剰余の定理、因数定理、高次方程式 | | |
| 6 | 第3章 図形と方程式 第1節 点と直線 第2節 円 | 2点間の距離、内分点・外分点、直線の方程式 2直線の平行・垂直 円の方程式、円と直線 | | |
| 7 | 第3節 軌跡と領域 | 軌跡の方程式、不等式の表す領域 | | |
| 8・9 | 第4章 三角関数 第1節 三角関数 | 一般角、弧度法、三角関数の相互関係、性質、三角関数のグラフ、三角方程式、三角不等式 | | |
| 10 | 第2節 加法定理 | 加法定理、2倍角の公式、半角公式、三角関数の合成 | | |
| 11 | 第5章 指数関数と対数関数 第1節 指数関数 | 指数法則、累乗根、指数の拡張 指数関数とそのグラフ | | |
| 12 | 第2節 対数関数 | 対数の定義・性質、対数関数のグラフ、常用対数 | | |
| 1 | 第6章 微分法と積分法 第1節 微分係数と導関数 | 微分係数、導関数、接線の方程式 | | |
| 2 | 第2節 関数の値の変化 | 関数の値の増加・減少、高次関数のグラフ、方程式・不等式への応用 | | |
| 3 | 第3節 積分法 | 不定積分、定積分、面積 | | |

数学B

| 教科 | 科目 | 単位数 | 指導学年 | 教科書名 | 副教材名等 |
|----|-----|-----|------|---------------------|--|
| 数学 | 数学B | 2 | 2 学年 | 改訂版 新編数学B (数研出版) | 改訂版 チャート式解法と演習 数学B(数研出版) 4TRIAL 数学B(数研出版) |

| | |
|------------------------------|---|
| 到達目標 | 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。 |
| 到達目標に向けての具体的な取組 【指導上の留意点】 | 補充プリントなどを適宜使用し、基礎から標準へのステップアップを目指す。 演習は予め指示しておいた問題を黒板に解答させて行う。 小単元毎に小テスト等を行い、生徒の理解度を確かめる。 |

| 月 | 単元 | 指導内容 (項目) | 評価方法 | 評価のポイント |
|----------------------------|--|---|---|---|
| 4月 5月 6月 7月 8月 | 第1章 平面上のベクトル 第1節 ベクトルとその演算 第2節 ベクトルと平面図形 | 1 ベクトルの意味 2 ベクトルの加法・減法・実数倍 1 ベクトルの成分 2 ベクトルの内積 1 位置ベクトル 2 図形のベクトル方程式 3 ベクトルの図形への応用 | 「関心・意欲・態度」 「技能・表現」「知識・理解」「思考・判断」の各観点に基づき、下記の点により総合的に評価する。 ・観察 (取組状況) ・出席状況 | ・机間巡視や、ノート点検などを通して、毎時間の様子を見る。 ・積極的に問題を解こうとしているか。 ・いろいろな解答例を考える (調べる) ことができるか。 |
| 9月 10月 11月 12月 | 第2章 空間のベクトル 第3章 数列 第1節 等差数列と等比数列 | 1 空間の点 2 空間のベクトル 3 ベクトルの成分、内積 4 座標空間における図形 1 数列 2 等差数列 3 等差数列の和 4 等比数列 5 等比数列の和 | ・ノート点検 ・課題レポート ・確認小テスト ・定期考査 | ・いろいろな解答例を自分のものにしようとしているか。 ・自分の考え方をしっかりと説明 することができるか。 ・単元の内容を理解できているか。 |
| 1月 2月 3月 | 第2節 いろいろな数列 第3節 数学的帰納法 | 6 和の記号 Σ 7 いろいろな数列 8 漸化式、数学的帰納法 | | |

| | |
|--|---|
| <p>第1章 数列</p> <p>1節 数列</p> <p>2節 実数</p> | <p>1 数列</p> <p>2 等差数列</p> <p>8 等差数列の和</p> <p>9 等比数列</p> <p>10 等比数列の和</p> <p>11 和の記号Σ</p> <p>12 いろいろな数列</p> <p>3 漸化式</p> <p>4 数学的帰納法</p> |
| <p>第2章 ベクトル</p> <p>1節 平面上のベクトル</p> <p>2節 ベクトルの応用</p> | <p>1 ベクトルの意味</p> <p>2 ベクトルの加法・減法・実数倍</p> <p>5 ベクトルの成分</p> <p>6 ベクトルの内積</p> <p>1 位置ベクトル</p> <p>2 図形のベクトル方程式</p> <p>3 ベクトルの図形への応用</p> |
| <p>3節 空間におけるベクトル</p> | <p>1 空間における直線と平面</p> <p>2 空間座標</p> <p>5 空間におけるベクトル</p> <p>6 位置ベクトルと空間の図形</p> |

物理 I

| | | | | |
|-----------|-----|------|-------------|---------------|
| 教科 (科目) | 単位数 | 指導学年 | 教科書名 | 副教材名等 |
| 理科 (物理 I) | 3 | 2 | 物理 I (数研出版) | セミナー物理 I + II |

| | |
|-----------------|---|
| 到達目標 | 自然現象や物質の性質を解説・実験・観察を行い、原理・法則を理解させ科学的に考察する能力を育てる |
| 到達目標に向けての具体的な取組 | 身の回りの事象を、物理的な実験や観察で考察・検証・推論できる能力を育成することと |
| 【指導上の留意点】 | 科学的な思考や計算力をつけさせる。 |

| 月 | 進度 (単元・章・項) | 指導内容 (項目/活動) | 評価方法等 | 評価のポイント |
|----|-------------|--------------|--|--|
| 4 | 運動と力 | 物体の運動 | 「関心・意欲・態度」「技能・表現」「知識・理解」「思考・判断」の各観点に基づき、 実験の参加意欲 レポートの考察内容 自由落下 投げ上げ・投げ下ろし 水平投射・斜方投射 力の表し方 運動の法則 及び ・ノート・レポート提出 ・定期考査 より総合的に評価する。 | 観察しようとする態度が良いか、また意欲があるか。 実験において意欲あるか、内容の理解ができているか。 レポートの完成度が高いか。 実験中の協調性・協力性・指導性があるかどうか。 基礎的内容を理解しているかどうか。 新しい事象に対する推論ができているかどうか。 授業中のノートがきちんと書けているかどうか。 |
| 5 | | 速度 | | |
| 6 | | 相対速度 | | |
| 7 | | 加速度 | | |
| 8 | | 自由落下 | | |
| 9 | | 投げ上げ・投げ下ろし | | |
| 10 | | 水平投射・斜方投射 | | |
| 11 | | 力の表し方 | | |
| 12 | 運動の法則 | | | |
| 1 | エネルギー | 仕事 | | |
| 2 | | 運動エネルギー | | |
| 3 | | 位置エネルギー | | |
| 4 | 熱 | 力学的エネルギー | | |
| 5 | | 熱と温度 | | |
| 6 | | 比熱 | | |
| 7 | 波動 | 熱容量 | | |
| 8 | | 波の伝わり方 | | |
| 9 | | 重ね合わせ | | |
| 10 | 生活と電気 | 音 | | |
| 11 | | 光 | | |
| 12 | | 静電気 | | |
| 1 | 生活と電気 | 電流 | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

生物 I

| 教科 | 科目 | 単位数 | 指導学年 | 教科書名 | 副教材名等 |
|----|------|------|------|---------------------|-----------------------------------|
| 理科 | 生物 I | 3 単位 | 2 学年 | 高等学校 改訂生物 I (第一学習社) | サイエンスビュー 生物図録 セミナー生物 I (第一学習社) |

| | |
|-----------------|--|
| 到達目標 | 生物分野の基本的な事柄を学び、生命現象を理解させる。実験を通して、自然現象の観察の仕方、科学的な見方、まとめ方等を理解させる。 |
| 到達目標に向けての具体的な取組 | 新聞やニュース等、生物分野の話題もできるだけ取り上げ、生物を身近な学問であることを実感させて、人生の中で生物的な観点で生活できる人間になることを目標とする。 |
| 【指導上の留意点】 | ただ専門用語を覚えるだけでなく、実物を見ることによって生物の違いに気づくように指導し、科学的な考え方を身に付けさせる。自然現象に興味を持つように進める。 |

| 月 | 速度 (単元・章・項) | 指導内容 (項目/活動) | 評価方法等 | 評価のポイント |
|-----------------------|--|---|---|---|
| 4 5 6 7 8 | 第1編 生命の連続性 第1章 細胞 1. 生命の単位 2. 細胞の機能と構造 3. 細胞への物質透過 4. 細胞の増殖と分化 第2章 生殖と発生 1. 生殖 2. 有性生殖の過程 3. 発生とそのしくみ | 生物を構成する最小単位である細胞について学び、それらの構成要因である細胞小器官の構造、働きを理解させる。 細胞と外液との浸透圧の差によって生じる現象を、動物・植物について理解させる。 細胞の増え方の仕組みを理解させる。 ウニとカエルの初期発生を学ぶことによって、生物の受精から個体形成までを理解させる。 | 「関心・意欲・態度」「技能・表現」「知識・理解」「思考・判断」の各観点に基づき、下記の点により総合的に評価する。 実験レポートを点検 中間考査で評価する。 期末考査で評価する 実験レポート、ノート、出席状況、授業態度等により、平常学習を評価する。 | 実験レポートの評価 レポート形式になっているか。 実験の意味を理解しているか。 正しい結果を得ているか。 考察に対し、相手に伝わる解答をする努力があるか。(表現力) 定期考査 (中間・期末) 基本的事項が身についているか。 応用問題が解けているか 自分なりのノートを作っているか 出席状況 授業への取り組み |
| 9 10 11 12 | 第3章 遺伝 1. 遺伝の法則 2. 遺伝子と染色体 3. 遺伝子の本体 第2編 環境と生物の反応 第4章 環境と動物の反応 1. 刺激の受容と動物の反応 2. 神経系 | 子が親に似ることを科学的手法で説明し、いろいろな遺伝現象を学ばせて、その仕組みを理解させる。 生物は様々な環境下で生活しており、環境が変化すれば、生物の対応も変わる。環境と動植物の関わりについて学ぶ。 動物は神経系が発達し環境への関わりは神経系を通じて行われるので、神経を中心とする刺激に対する受容や反応の仕方を学ぶ。 | 実験レポートを点検 中間考査で評価する 実験レポートを点検 期末考査で評価する 実験レポート、ノート、出席状況、授業態度等により、平常学習を評価する。 | 実験レポートの評価 レポート形式になっているか。 実験の意味を理解しているか。 正しい結果を得ているか。 考察に対し、相手に伝わる解答をする努力をしているか。(表現力) 定期考査 (中間・期末) 基本的事項が身についているか。 応用問題が解けているか 自分なりのノートを作っているか 出席状況 授業への取り組み |
| 1 2 3 | 3. 動物の行動 4. 体液と恒常性 第5章 環境と植物の反応 1. 動物の生活と環境 2. 植物の反応と調節 | 動物はどのようなしくみで体外体内の環境の変化に対応しているのかを学ぶ。 植物は周囲の環境の影響を強く受ける。どんなしくみで環境の変化に対応するのかを学ぶ。 | 実験レポートを点検 学年末考査で評価する 実験レポート、ノート、出席状況、授業態度等により、平常学習を評価する。 | 実験レポートの評価 レポート形式になっているか 実験の意味を理解しているか 正しい結果を得ているか 考察に対し、相手に伝わる解答をする努力があるか。(表現力) 定期考査 (学年末) 基本的事項が身についているか。 応用問題が解けているか 自分なりのノートを作っているか 出席状況 授業への取り組み |

地学 I

| 教科 | 科目 | 単位数 | 指導学年 | 教科書名 | 副教材名等 |
|----|------|-----|------|---------------------|----------------|
| 理科 | 地学 I | 3 | 2 | 高等学校 地学 I 改訂版 (啓林館) | 新訂 地学図表 (浜島出版) |

| | |
|-----------------|--|
| 到達目標 | 地球の歴史的発展法則の理解に努めるとともに、生徒自らが自然を観察し、自然から学ぶ態度を育成する。 |
| 到達目標に向けての具体的な取組 | 可能な限り実験・実習を行い、そこで得た実験結果・観察結果や新たに生じた疑問を日々の授業の中で生かしていく。 |
| 【指導上の留意点】 | 実験・実習の実施に際しては、事前事後の指導を十分に行い、実験・実習の意味やそこから得られる結論を理解させる。 |

| 月 | 速度 (単元・章・項) | 指導内容 (項目/活動) | 評価方法等 | 評価のポイント |
|-----------------------|------------------------|--|--|--|
| 4 5 6 7 9 | 固体地球とその変動 地球の歴史 | 地球の概観 地球の内部 ・地球の大きさを実感するための実習 ・走時曲線を作成して、地球の内部構造がいかに解明されたかを理解させる。 地球の活動 地層の形成と地殻変動 ・地球の歴史がどのように組み立てられてきたか学習する。 | 「関心・意欲・態度」「技能・表現」「知識・理解」「思考・判断」の各観点に基づき、定期考査と授業時の意欲・積極性、実験・実習時の態度・意欲およびレポートをもとに評価する。 | <ul style="list-style-type: none"> 授業の内容が理解できているか 実験・実習の意義が理解できているか 実験・実習に意欲的に取り組んでいるか 実験・実習の結果をうまくまとめられるか |
| 10 11 12 | 宇宙の構成 | 地球と惑星の運動 ・ケプラーが惑星の公転軌道をどのように解明したか理解させる。 太陽の構造と活動 ・実習を通じて、黒点の相対数と太陽活動の関係を理解させる。 恒星の性質と進化 ・HR図を作成することで、様々な恒星の性質を理解させる。 銀河系と宇宙 ・銀河系の構造と膨張宇宙を理解させる。 | | <ul style="list-style-type: none"> 授業の内容が理解できているか 実験・実習の意義が理解できているか 実験・実習に意欲的に取り組んでいるか 実験・実習の結果をうまくまとめられるか |
| 1 2 3 | 大気・海洋と気象 | 大気・海洋の構造 ・大気・海洋の複雑な構造を理解させる。 地球の熱収支と大気・海水の動き 大気と海水の運動 ・地球の熱収支を紹介し、それが大気・海水の大循環の原因であることを理解させる。 大気・海洋の相互作用と地球環境 ・エルニーニョ現象などを例に挙げ、大気・海洋の相互作用と地球環境について理解させる。 | | <ul style="list-style-type: none"> 授業の内容が理解できているか 実験・実習の意義が理解できているか 実験・実習に意欲的に取り組んでいるか 実験・実習の結果をうまくまとめられるか |

教科・科目別年間指導計画

| 教科 | 科目 | 単位数 | 指導学年 | 教科書名 | 副教材名等 |
|-----|-----|-----|------|---------------------|---------------------------|
| 外国語 | 英語Ⅱ | 3 | 2年 | PROMINENCE EnglishⅡ | STEP UP 77英語構文、System 英単語 |

| | |
|--------------------------------------|---|
| 到達目標 | 読解力の養成を主として、4技能を高める 入試に対応できる英語力を定着させる |
| 到達目標に向けての 具体的な取組 【指導上の留意点】 | 予習を徹底させる 様々な話題の文章を読み、英文を正確に読みとる力をつける 英語に特有な構文の知識を習得させる 小テスト等により学習への動機付け・知識の定着を図る |

| 月 | 速度（単元・章・項） | 指導内容（項目／活動） | 評価方法等 | 評価のポイント |
|-----------------------|--|--|---|---|
| 4 5 6 7 8 | PROMINECE II Lesson 1～5 英語構文 61～63,65,1～27 System 英単語 61～370 | PROMINECE II <ul style="list-style-type: none"> ・アフリカ人女性として初のノーベル平和賞を受賞したワンガリ・マータイさんの大好きな日本語の言葉について ・インスタラーメンにまつわるエピソードについて ・ある日突然、片腕を奪われながらも、大好きなサーフィンを決して諦めなかった13歳の少女の真実の物語。 ・「真実は小説よりも奇なり」時として小説よりも不可解な出来事が現実起きることがある。その体験について 英語構文 仮定法・Itを含む構文、基本文型・助動詞・不定詞を含む構文 | 授業観察 小テスト 提出物 定期考査 | 予習をきちんと行っている 英文の内容を理解できる 英語を正しく発音できる 積極的に授業に参加している |
| 9 10 11 12 | PROMINECE II Lesson 6～8 Option 3 英語構文 28～68 System 英単語 371～610 | PROMINECE II <ul style="list-style-type: none"> ・「外来生物法」が施行されたが、私達が今後とるべき道は？ ・チャップリンの有名な映画「独裁者」の名演説を歴史的背景と共に学び、スピーチへとつなげる。 ・自転車の歴史と将来への展望 ・私達の知覚の錯覚について 英語構文 動名詞・接続詞を含む構文 その他の注意する構文 | 授業観察 小テスト 提出物 定期考査 | 予習をきちんと行っている 英文の内容を理解できる 英語を正しく発音できる 積極的に授業に参加している |
| 1 2 3 | PROMINECE II Lesson 9, 10 英語構文 69～77 System 英単語 671～920 | PROMINECE II <ul style="list-style-type: none"> ・彫刻家のイサム・ノグチとその作品について ・ドイツの古都ドレスデンにある「破壊の象徴」が「和解の象徴」になった聖母教会の再建にまつわる話 英語構文 注意すべき構文 | 授業観察 小テスト 提出物 定期考査 | 予習をきちんと行っている 英文の内容を理解できる 英語を正しく発音できる 積極的に授業に参加している |

教科・科目別年間指導計画

| 教科 | 科目 | 単位数 | 指導学年 | 教科書名 | 副教材等 |
|-----|-----|-----|------|-----------------------------|----------------|
| 外国語 | 英語W | 2 | 2年 | Sunshine English Writing | スクランブル英語問題総合演習 |

| | |
|------------------|--|
| 到達目標 | 聞いたり読んだりした情報や考えなどを、自分の考えを整理しながら、読み手に理解されるように書く能力を伸ばす。 |
| 到達目標に向けての具体的な取組み | 予習を徹底させる 場面や状況にふさわしい最低限の表現力を養う。文の組み立て方について学ぶ。 副教材の小テスト等により学習への動機付け・知識の定着を図る。 リスニングの能力の向上をめざす。 |

| 月 | 速度(単元,章,項) | 指導内容 | 評価方法等 | 評価のポイント |
|---|---|---|-----------------------------|--|
| 4 | Part 1 Unit 1 Unit 2 Unit 3 Unit 4 | 文法の知識を生かして、伝えたい内容を英語で表現する練習を行う。 第1文型, There is の文 第2 第3文型 第4 第5文型 否定文、疑問文、命令文、感嘆文 | 授業態度 小テスト 提出物 定期考査 | 予習を毎回きちんと行っている。文法も含めて理論的に正しく表現できている。 その時と状況にふさわしい表現ができる。 小テストに積極的に取り組んでいる。 積極的に授業に参加している。 |
| 5 | Topic 1 Unit 5 Unit 6 Unit 7 Unit 8 Unit 9 | 自己紹介 家族 趣味の表現 基本時制 進行形 完了形 未来を表わす表現 助動詞 受け身 | | |
| 6 | (中間考査) Topic 2 Unit 10 Unit 11 Unit 12 Unit 13 | 学校生活 動名詞 現在分詞、過去分詞、分詞構文 不定詞、動名詞、分詞の慣用表現 受動態 | | |
| 7 | Topic 3 Unit 14 Unit 15 Unit 16 Topic 4 (期末考査) | 音楽、絵、読書 名詞の修飾1 名詞の修飾2 名詞の修飾3 旅行、交通表現 | | |
| 8 | | 既習事項の文法的確認⇒スクランブル使用 既習事項を使い、表現させる宿題。 | | |

| | | | | |
|----|---------------------------------|---|-----------------------------|--|
| 9 | Part 1 | 基礎的な文法項目と機能的な表現を学ぶ。 | 授業態度 小テスト 提出物 定期考査 | 予習を毎回きちんと行っている。文脈にあった英文の理解ができる。文法も含めて理論的に正しく表現できている。その時と状況にふさわしい表現ができる。 小テストに積極的に取り組んでいる。 積極的に授業に参加している。 |
| | Unit 17 | 名詞句 1 | | |
| | Unit 18 | 名詞句 2 | | |
| | Unit 19 | 名詞節 (that~) 1 | | |
| | Unit 20 | 名詞節 名詞句 2 | | |
| | Unit 21 | 文の組立てと不定詞 | | |
| | Topic 5 | スポーツ、健康表現 | | |
| 10 | Topic 6 (中間考査) | テレビ、映画 DVD表現 | | |
| | Part 2 | 英語的な表現と発想を学ぶ | | |
| | Unit 22 | 主語、主題 1 | | |
| | Unit 23 | 主語、主題 2 | | |
| | Unit 24 | 否定表現 | | |
| 11 | Unit 25 | 数量表現 | | |
| | Unit 26 | 時間、距離の表現 | | |
| | Unit 27 | 比較表現 1 | | |
| | Unit 28 | 比較表現 2 | | |
| | Topic 8 | 衣服 ファッション | | |
| 12 | Technique for writing (期末考査) | 主題⇒展開⇒結びの英文構成 既習事項の文法的確認⇒スクランブル使用 既習事項の復習問題をさせる | | |
| 1 | Unit 29 | 意図 予定 | 授業態度 小テスト 提出物 定期考査 | 予習を毎回きちんと行っている。その時と状況にふさわしい表現ができる。 小テストに積極的に取り組んでいる。 積極的に授業に参加している。 |
| | Unit 30 | 希望 願望 | | |
| | Unit 31 | 義務 必要 | | |
| 2 | Unit 32 | 推量 可能性 1 | | |
| | Unit 33 | 推量 可能性 2 | | |
| | Unit 34 | 依頼 要求 | | |
| | Unit 35 | 勧誘 提案 1 | | |
| 3 | Unit 36 | 意見 考え 問題 | | |
| | Unit 37 | 許可 禁止 | | |
| | (学年末考査) | | | |

「学校設定科目」届 (指導と評価の年間計画)

| 教科 | 科目 | 開設学年 | 単位数 | 教材名等 |
|----|----------|------|-----|-------------------------------------|
| 英語 | 構文・読解 基礎 | 2 | 2 | OASISリスニング付総合問題集4 スクランブル英語問題総合演習 |

| | |
|------------------------------|--|
| 到達目標 | ・書き手の意向などを読みとる能力・比較的長い英文を理解しようとする積極的な態度を育てる |
| 到達目標に向けての具体的な取組 【指導上の留意点】 | <ul style="list-style-type: none"> ・入試に対応できるための基礎学力、リスニング力を養成する ・予習・復習を徹底させる ・英文を正しく読みとらせるのに必要な文法事項を習熟させる ・一定量の英文を限られた時間内で読む ・小テストの実施 |

| 月 | 単元・教材名 | 指導内容 | 評価方法 | 評価のポイント |
|-----------------------|---|--|---|---|
| 4 5 6 7 8 | OASISリスニング付総合問題集4 Lesson 1 ~Lesson 5 スクランブル英語問題総合演習 第17章~第19章 | 読解 テーマ：文化・物語・社会・生活 ・エッセイ 文法の基礎知識の習熟 時制・助動詞・受動態・不定詞・動名詞・分詞 語法の習熟 名詞・冠詞・形容詞・副詞 | 授業観察 提出物 小テスト 定期考査 | 予習の習慣が確立できている 文法事項の知識が定着して、使いこなせる 英文の内容を早く正確に読みとることができる |
| 9 10 11 12 | OASISリスニング付総合問題集4 Lesson 6 ~Lesson 12 スクランブル英語問題総合演習 第20章~第21章 | 読解 テーマ：社会・文化・生活・環境 科学・社会生活・物語 文法の基礎知識の習熟 不定詞・動名詞・分詞・比較・関係代名詞・関係副詞・複合関係詞・否定 ・仮定法・注意すべき構文 語法の習熟 前置詞 イディオムの習熟 動詞中心 | | |
| 1 2 3 | OASISリスニング付総合問題集4 Lesson 13 ~Lesson 15 スクランブル英語問題総合演習 第22章 | 読解 テーマ：歴史・科学・環境 文法の基礎知識の習熟 名詞・代名詞・形容詞・副詞・前置詞 ・接続詞 イディオムの習熟 形容詞・副詞中心 | | |

| 教科 | 科目 | 単位数 | 指導学年 | 教科書名 | 副教材名等 |
|----|-----|-----|------|----------|-------|
| 音楽 | 音楽Ⅱ | 1 | 2 | Mousa II | なし |

| | |
|--------------------------|--|
| 到達目標 | 音楽Ⅰで学んだことに加え、さらに自己を表現する手段と力をつける。音楽Ⅰの復習となることを繰り返し学習する中で生まれる心のゆとりをうまく活用し、自分なりにできることを見つけ実践する。自主的・主体的に行動する力に加えて、思いついたことや興味のあることに挑戦する勇気と行動力を育む。 |
| 目標にむけての具体的な取り組み【指導上の留意点】 | クラス単位で質にこだわった合唱を追求し、コミュニケーションとアンサンブルを意識した音楽を目指す。またグループ単位での音楽活動を自主的に進め、創作能力を高める。声楽（発声方法）の基礎を身につけ、さらにはそのコントロール能力を向上させる。 |

| 月 | 単元・教材名 | 指導内容 | 評価方法 | 評価のポイント |
|------------------|---|---|-------------------------------|--|
| 4月 | ◇基本的な発声練習 | 発声方法をさらに深く学習することによって、さらにのびのある美しい声を出すことを目標とする。 | ・授業での参加態度 | ・真面目に取り組んでいるか。 |
| 5月 6月 7月 | ◇合唱 | 発声について繰り返し学習をすることで、合唱にふさわしい歌い方を身につける。特にハーモニー感のある歌唱能力をつけることを目標とする。 その曲にふさわしい発声方法・表現方法を自ら工夫する能力をつける。 | ・授業での練習態度 ・暗譜テスト ・感想文提出 | ・仲間と協力して真面目に取り組んでいるか。 ・誠意をもって授業に取り組んできた様子がうかがえるか（感想文）。 |
| 8月 9月 10月 | ◇重唱 | 重唱を通して、ハーモニー感の伴ったベルカント方式での発声方法を身につける。 教材の中で、ソルフェージュの能力も培うことにより、次の行う創作発表のための準備段階とする。 | ・授業での練習態度 ・実技テスト | ・授業を疎かにしてはいないか。 ・積極的な音楽に対する姿勢が伺えるか。 |
| 11月 12月 1月 | ◇グループ活動（アンサンブル・創作） 3人以上、6人以内のグループをつくり、自分たちで創作した曲を練習し、発表する。 | グループごとにオリジナル曲を創作し、それを発表する。その過程で、様々な楽器の奏法なども身につける。 同じ作品を2度にわたり発表することで、お互いに意見をしあい、推敲し、さらに良い作品に仕上げる姿勢を培う。 | ・グループ発表（2回） ・発表鑑賞レポート提出 | ・授業を疎かにしてはいないか。 ・仲間と協力しながら自主的に行動しているか。 ・相手のことを思いやりながら音楽をしているか。 |
| 2月 3月 | ◇鑑賞 歌劇「フィガロの結婚」や舞台芸術に関する題材をとりあげた作品や、それにかかわっている楽曲。 | 歌劇の鑑賞を通して当時の時代背景や生活、曲などを無理なく理解する。また楽曲などに興味が湧くよう配慮する。 バロック時代から現代までの代表的な作品を聴き、時代によって移り変わる音楽をたどる。 | ・学習プリント提出 ・鑑賞レポート提出 | ・意欲的に授業に取り組んでいるか。 ・意欲を持って鑑賞に取り組み、教養を増やそうとしているか。 |

美術Ⅱ（指導と評価の年間計画）

| 教科 | 科目 | 単位数 | 指導学年 | 教科書名 | 副教材名等 |
|----|-----|-----|------|----------------|-------|
| 美術 | 美術Ⅱ | 1 | 2 | 高校美術2（日本文教出版）Ⅱ | なし |

| | |
|--------------------------|--|
| 到達目標 | 美術の創造活動を通して、美術を愛好する心情を育て、表現と鑑賞の能力を高めるとともに、美術についての理解を深める。（学習指導要領） |
| 目標にむけての具体的な取り組み【指導上の留意点】 | <ul style="list-style-type: none"> 配置や視点の位置の変化で表現効果が大きく変る事を理解させる。 心情表現を大切に、マチュールや色彩表現を、意識させる。 表現とは何かを考えさせ、感想、意見を述べる力を身につける。 |

| 月 | 単元・教材名 | 指導内容 | 評価方法 | 評価のポイント |
|-------------------------|-------------------------|---|---|---|
| 4月 | ◇ 果物の素描画 ◇ 作品の鑑賞 | <ul style="list-style-type: none"> 短時間で形の特徴を捉え、線の強弱で描く 作品の構図、フレーミングの工夫の理解 | 「関心・意欲・態度」 「感性・理解・能力」 の各観点に基づき、下記の点により総合的に評価する。 <ul style="list-style-type: none"> 各作品 授業での取り組み態度 自己評価カード | <ul style="list-style-type: none"> モチーフの配置や構図を工夫しているか。 |
| 5月 6月 7月 | ◇ 静物画を描こう ◇ 合評 | <ul style="list-style-type: none"> 自分の描きたいものを選び、色彩、配置を工夫してモチーフを組む。 配置の前後関係、空間を配慮しながら下絵を描く。 物がもつ色彩を感じ取り着彩する。 光の方向を意識し細部のデテールを描く。 お互いの作品を鑑賞し意見、感想を述べます。 . | | <ul style="list-style-type: none"> 形の特徴を捉えられているか 質感、空間表現。マチュールを認識出来ているか。 意見、感想を発表もしくは記述できるか |
| 9月 10月 11月 12月 | ◇ 点描画でイメージ画を描こう ◇ 合評 | <ul style="list-style-type: none"> 参考作品の鑑賞。 技法の紹介。 イメージ画を画用紙に下書きをする。 パネルに下絵をトレースする。 点描で描いていく お互いの作品を鑑賞し意見、感想を述べます。 | | <ul style="list-style-type: none"> 自己の表現したいイメージを追求しているか。 技法に適した表現を試みているか 意見、感想を発表もしくは記述できるか。 |
| 1月 2月 3月 | ◇ 白蠟石の彫刻 | <ul style="list-style-type: none"> スケッチブックに何を彫りたいか描く 白蠟石に彫るための下絵を写す きちんと下絵通りにほれているか、とがるところはとがり、丸まるところは丸まってほれているか。 お互いの作品を鑑賞し意見、感想を述べます。 | | <ul style="list-style-type: none"> 彫刻の形のユニークさ。 彫刻部分を三次元として、立体的に把握し、表現できているか。 |

書道Ⅱ

| 教科 | 科目 | 単位数 | 指導学年 | 教科書名 | 副教材名等 |
|----|-----|-----|------|-----------|-------|
| 芸術 | 書道Ⅱ | 1 | 2 | 書道Ⅱ（東京書籍） | |

| | |
|--------------------------|--|
| 到達目標 | 書道Ⅰで学んだことを基礎に、さらに内容を広げ深めていく。創作作品を多く制作することで、書を通して自己を表現する喜びを体験する。 |
| 目標にむけての具体的な取り組み【指導上の留意点】 | 1単位での実技は慌ただしいが、説明を簡潔に行い、書作時間を長く取れるよう工夫する。限られた練習時間の中で、主体的な創作活動ができるよう、手順や時間配分を考えさせる。 |

| 月 | 単元・教材名 | 指導内容 | 評価方法 | 評価のポイント |
|----|-------------|-------------------------------|---------------|-------------------------------|
| 4 | 仮名の書 | ・仮名の用筆や連綿、変体仮名、散らし書きの復習 | ・観察（意欲、興味、関心） | ・古筆の特徴を捉え、章法に留意した臨書作品になっているか。 |
| 5 | 「関戸本古今集」の臨書 | ・短冊に仕上げる。 | ・作品 | ・構成を工夫し、潤渇のある作品に仕上がっているか。 |
| 6 | 仮名創作 | ・俳句を、小色紙に散らし書きで仕上げる。（文化祭にて展示） | ・作品 | |
| 7 | ペン字 | ・行書による漢字仮名交じり文の練習 | | |
| 8 | 漢字の書 | ・五書体のうち二書体に絞って、半紙に臨書する。 | ・観察（意欲、興味、関心） | ・書体の特徴である用筆法や字形が表現できたか。 |
| 9 | 隷書の臨書「礼器碑」 | | ・作品 | |
| 10 | 草書の臨書「書譜」 | | | |
| 11 | 「十七帖」 | | | ・章法に注意して仕上げられたか。 |
| 12 | ペン字 | ・行書の基本 | ・作品 | ・点画の連続と省略が理解できたか。 |
| 1 | 漢字仮名交じりの書 | ・自由課題の詩文書を、半紙版色紙に仕上げる。（校内に展示） | ・観察（意欲、興味、関心） | ・構成を工夫し、古典を意識しながら書けたか。 |
| 2 | 詩文書創作 | | ・作品 | ・漢字と仮名が調和しているか。 |
| | ペン字 | ・仮名、その他の書式 | ・作品 | ・日常に生かすことを意識しながら書けたか。 |

教科・科目別年間指導計画

| 教科 | 科目 | 単位数 | 指導学年 | 教科書名 | 副教材名等 |
|----|------|-----|------|-------------------------|----------|
| 家庭 | 家庭総合 | 1 | 第2学年 | 新家庭総合 ともに生きる 暮らしをつくる | 新選 食品成分表 |

*家庭総合3単位を第1学年2単位、第2学年1単位で分割履修するものとする。

| | |
|--------------------------|---|
| 到達目標 | 人の一生と家族、消費生活、衣生活、住生活などに関する知識と技術を総合的に習得させ、生活課題を主体的に解決するとともに、家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。 |
| 到達目標に向けての具体的な取組【指導上の留意点】 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 実験、実習、ワークショップ等を活用し、基本的な知識や技術を実践的・体験的に習得できるようにする。 ・ 社会の出来事に目を向け、関心を持ち、現在及び将来の生活について考える機会を意識的に設ける。 ・ 実際の生活の場で生きて働く力になるように、各学習内容を総合的に関連させるようにする。 |

| 月 | 速度 (単元・章・項) | 指導内容 (項目/活動) | 評価方法等 | 評価のポイント |
|----|--|---|---|---|
| 4 | 第3部 生活を営む 3章 住まう 1 人間と住まい 2 暮らしと住空間 3 健康と住まい 4 安全な住まい 5 住まいと環境 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 住居の役割や重要性を理解する。 ・ 住居の平面図や基礎的知識を学び、ライフスタイルやライフステージに合った住空間をつくる。 ・ 快適な室内環境確保のための知識を身に付け、健康的な住居や住生活のあり方を考える。 | 「関心・意欲・態度」「知識・理解」「思考・判断」の各観点に基づき、下記の方法で、総合的に評価する。 ・ 授業観察 ・ レポート提出 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 意欲関心を持って授業に臨み、よく聞き、重要事項を把握しているか。 ・ 基礎的知識を理解したうえでライフスタイルに応じた住空間作りができるか。 ・ 平面図から3次元空間を正しく想像できる思考力、判断力がついているか。 |
| 5 | | | | |
| 6 | 第4部 生活を創る 1章 暮らしと経済 1 生活を支える経済 2 家計と国民経済・国際経済 3 将来のための経済計画 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 家計を中心としたお金の流れを知る。 ・ 家庭の経済生活についての長期的見通しを立てる ・ 消費生活の現状と課題、消費者問題と消費者の保護、消費者の責任について理解する。 | ・ 授業プリント提出 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分と社会環境との関わりに関心を持ち、生活を見直そうとしているか。 |
| 7 | 2章 消費者としての自立 1 消費生活の変化と消費者 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 消費者として資源や環境とのかかわりについて理解し、主体的に判断し責任を持って行動できる。 | | |
| 8 | 2 消費者の権利と責任 3 生活情報と消費者としての意思決定 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 環境負荷の少ない生活を目指して生活意識や生活態度を見直し、生活を工夫できる。 | ・ 1学期末考査 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎的知識が身についているか。 |
| 9 | 第2部 共に生きる 1章 次世代を育む 1 子どもの世界 | <ul style="list-style-type: none"> ・ VTR視聴、新生児模型により胎児期、乳児期の心身の特徴を知り、母体の健康管理の重要性を認識し、保育に関心を持つ。 | ・ VTR視聴レポート | <ul style="list-style-type: none"> ・ 自らも子どもにとっては社会環境であるという視点で保育に関わろうとしているか。 |
| 10 | 2 子どもの発達と生活 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 乳幼児期の心身の発達の特徴を知り、人格形成における家庭保育・集団保育での親・保育者とのかかわり重要性と、遊びの意義について認識する。 | | <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会環境の変化と子どもの発達との関わりに関心を持つことができるか。 |
| 11 | 3 親と社会の役割と保育 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 親の保育を支援するための社会施策を知る。 ・ 子どもを取り巻く環境の変化と、より良い環境を保障するために親や家庭、社会が果たす役割について考える。 | ・ 授業プリント提出 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会的な問題に関心を持ち、子どもにとって最善の利益の保障のあり方について考えているか。 |
| | 4 子ども期の保障と子どもの福祉 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童福祉の基本的理念を理解する。 | | <ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎的知識が身についているか。 |
| 12 | 2章 高齢期の生活 1 高齢期を魅力的に生きる | <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の生活を理解し、心身の変化は個人差が大きいことを認識する。 ・ 身体的変化についてはイヤードیفエンダー、白内障ゴーグル、サポーター、車椅子などを使った疑似体験を通して体験的に理解し、高齢者ができるだけ自分で生活できるように環境や道具を工夫することの重要性について認識する。 | ・ 2学期末考査 ・ グループワークプリントの提出 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 積極的に体験に取り組み、社会環境や生活環境を福祉の視点から問い直しているか。 ・ 自らの意見を表明し、また他者の意見に耳を傾け、多様な考え方があることを理解しているか。 |
| | 2 高齢社会の現状と課題 | | | |
| 1 | 3 高齢者の自立支援と福祉 4 人間の尊厳と介護 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者福祉の基本的理念と高齢者福祉サービスについて理解する。 | ・ 授業プリント提出 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 自らの生活を客観的に省み、意欲的に学習に取り組もうとしているか。 |
| | 3章 人の一生と福祉 1 福祉とは | <ul style="list-style-type: none"> ・ 私たちの生活と福祉とのかかわりについて理解する | | <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会的な問題に関心を持ち、福祉のあり方について考えているか。 |
| 2 | 2 支え合うしくみと福祉への参加 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会保障・福祉のしくみについて理解する | ・ 学年末考査 | |
| 3 | | | | |

体育（2年男子）

| 教科 | 科目 | 単位数 | 指導学年 | 教科書名 | 副教材名等 |
|----|----|-----|------|-----------------|-------|
| 体育 | 体育 | 1 | 2年 | 現代保健体育 (大修館) | |

| | |
|----------------------------------|---|
| 到達目標 | 心と身体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通じて、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。 |
| 到達目標に向けての具体的な取組 【指導上の留意点】 | 身体ほぐしから始まり、運動を通じて体の調子を整えるとともに、基礎体力の向上を図る。新体力テストを実施し、生徒の基礎体力を知らせる。その結果、各運動種目の特性を理解させ楽しみながら、授業の場や日常生活での、工夫をすることでよりその能力体力の増強を図らせる。 |

| 月 | 速度（単元・章・項） | 指導内容（項目／活動） | 評価方法等 | 評価のポイント |
|----|------------|---|---|--------------------------------------|
| 4 | 体ほぐし運動 | ストレッチング中心 新体力テスト実施 各記録の結果 | 「関心・意欲・態度」 「技能・表現」「知識・理解」「思考・判断」の各観点に基づき、 下記の点により総合的に評価する。 色々なスキルテスト | |
| 5 | バレーボール | ○オーバーハンドパス・アンダーハンドパスの技術習得 | | 関心・意欲・態度・理解 |
| 6 | | ○アンダーハンドパス・オーバーハンドパスの技術習得 ○アタック・ブロックなどの技術習得 ○コンビネーション練習 | 実技テスト | 運動の技能 関心・意欲・態度・理解 |
| 7 | 水泳 | ○水泳 平泳ぎ | 記録測定 | 記録・泳法 |
| 8 | | | | |
| 9 | 水泳 | ○水泳 平泳ぎ | 記録測定 | 記録・泳法 |
| 10 | バレーボール | ○ミニゲーム 3段攻撃の練習 | 実技テスト チーム内での役割 | 運動の技能 関心・意欲・態度・理解 パス・タックルなどの技術 |
| 11 | | ○ゲーム | ゲーム結果 | |
| 12 | | | | |
| 1 | 持久走 | 12分間走・3000m | 記録測定 | 記録・走法 意欲・態度 |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |

体育（2年柔道）

| 教科 | 科目 | 単位数 | 指導学年 | 教科書名 | 副教材名等 |
|----------|--------------|-----|------|-----------------|-------|
| 保健 体育 | 体育 I (柔道) | 1 | 2年 | 現代保健体育 (大修館) | |

| | |
|----------------------------------|---|
| 到達目標 | 心と身体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通じて、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。 |
| 到達目標に向けての具体的な取組 【指導上の留意点】 | 安全第一と相手を敬う心の育成を主眼として授業を展開する。 受け身・固め技の確認 立ち技の習得 試合形式の理解 |

| 月 | 速度（単元・章・項） | 指導内容（項目／活動） | 評価方法等 | 評価のポイント |
|-----------------------|---|---|---|---|
| 4 5 6 7 8 | 礼の精神 準備・補強運動 各種受け身と 立ち技の確認 立ち技の習得 | (受身・固め技) 後方受け身・横受け身 前受け身・前回り受け身 膝車、出足払い 大外刈り・大内刈り・ 小外刈り (立ち技) 大腰・払い腰・体落とし・ 内股 | 「関心・意欲・態度」 「技能・表現」 「知識・理解」 「思考・判断」の各観点に基づき、下記の点により総合的に評価する。 実技テスト 試合 | 受け身の正確性・安全性 技の修得度 (意欲により階級を分ける) 取り側の引き手 受け側の正確な受身 |
| 9 10 11 12 | 立ち技の習得 試合 | かかり稽古 乱取り 試合 | 実技テスト 勝敗・礼儀作法 | 技の修得度 (意欲により階級を分ける) 取り側の引き手 受け側の正確な受身 技の修得度 (意欲により階級を分ける) 試合をする上での礼儀作法 の実践状況 |
| 1 2 3 | 持久走 | 12分間走 3000m走 シャトルラン | 記録測定 | 記録・測定 意欲・態度 |

体育（2年男子）

| 教科 | 科目 | 単位数 | 指導学年 | 教科書名 | 副教材名等 |
|----------|----|-----|------|-----------------|-------|
| 保健 体育 | 体育 | 1 | 2年 | 現代保健体育 (大修館) | |

| | |
|----------------------------------|---|
| 到達目標 | 心と身体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通じて、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。 |
| 到達目標に向けての具体的な取組 【指導上の留意点】 | 身体ほぐしから始まり、運動を通じて体の調子を整えるとともに、基礎体力の向上を図る。新体力テストを実施し、生徒の基礎体力を知らせる。その結果、各運動種目の特性を理解させ楽しみながら、授業の場や日常生活での、工夫をすることによりその能力体力の増強を図らせる。 |

| 月 | 速度（単元・章・項） | 指導内容（項目／活動） | 評価方法等 | 評価のポイント |
|---------------------|------------------------|--|---|-----------------------------------|
| 4 5 6 | 体ほぐし運動 陸上競技（投擲） | ストレッチング中心 新体力テスト実施 各記録の結果 ・やり投げ 握り方、ステップ、投げ方 練習方法の注意（安全面） | 「関心・意欲・態度」「技能・表現」「知識・理解」「思考・判断」の各観点に基づき、下記の点により総合的に評価する。 実技テスト 記録測定 | 運動の技能 関心・意欲・態度・理解 |
| 7 8 | 水泳 | ・水泳 平泳ぎ | 記録測定 | 記録・泳法 |
| 9 10 11 12 | 水泳 ラグビー | ・総合練習 ・基本練習 ランニングパス タッグラグビー FW基礎技術 BS基礎技術 ゲーム | 記録測定 実技テスト 授業への取組み ゲーム結果 | 記録・泳法 運動の技能 関心・意欲・態度・理解 |
| 1 2 3 | 持久走 | 12分間走・3000m | 記録測定 | 記録・走法 意欲・態度 |

体育（2年女子）

| 教科 | 科目 | 単位数 | 指導学年 | 教科書名 | 副教材名等 |
|----|----|-----|------|-----------------|-------|
| 体育 | 体育 | 2 | 2年 | 現代保健体育 (大修館) | |

| | |
|----------------------------------|---|
| 到達目標 | 心と身体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通じて、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。 |
| 到達目標に向けての具体的な取組 【指導上の留意点】 | 身体ほぐしから始まり、運動を通じて体の調子を整えるとともに、基礎体力の向上を図る。新体力テストを実施し、生徒の基礎体力を知らせる。その結果、各運動種目の特性を理解させ楽しみながら、授業の場や日常生活での、工夫をすることでよりその能力体力の増強を図らせる。 |

| 月 | 速度（単元・章・項） | 指導内容（項目／活動） | 評価方法等 | 評価のポイント | | |
|----|--------------------|---------------------------------------|---|----------------------|------------------|----------------------|
| 4 | 体ほぐし運動 | ストレッチング中心 新体力テスト実施 | 「関心・意欲・態度」「技能・表現」「知識・理解」「思考・判断」の各観点に基づき、下記の点により総合的に評価する。 実技テスト | 運動の技能 関心・意欲・態度・理解 | | |
| 5 | 陸上競技（投擲）と 硬式テニス | 各記録の結果 | | | | |
| 6 | 水泳 | ○陸上競技（投擲） 砲丸投げ・やり投げ | | | | |
| 7 | | ○水泳 平泳ぎ | | | 記録測定 | 記録・泳法 |
| 8 | | | | | | |
| 9 | 水泳 | 総合練習 | | | 記録測定 | 記録・泳法 |
| 10 | ソフトボール | ○ソフトボール・ キャッチボール・ボール回し トスバッティング | | | 実技テスト 授業への取組み | 運動の技能 関心・意欲・態度・理解 |
| 11 | | ゲーム中心のグループ学習 | | | | |
| 12 | | | | | | |
| 1 | 持久走 | 12分間走・2000m | 記録測定 | 記録・走法 意欲・態度 | | |
| 2 | | | | | | |
| 3 | | | | | | |

体育（2年女子）

| 教科 | 科目 | 単位数 | 指導学年 | 教科書名 | 副教材名等 |
|----------|------|-----|------|-------------|-------|
| 保健 体育 | 体育 I | 1 | 2年 | 現代保健体育（大修館） | |

| | |
|----------------------------------|---|
| 到達目標 | 心と身体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通じて、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。 |
| 到達目標に向けての具体的な取組 【指導上の留意点】 | 身体ほぐしから始まり、運動を通じて体の調子を整えるとともに、基礎体力の向上を図る。新体力テストを実施し、生徒の基礎体力を知らせる。その結果、各運動種目の特性を理解させ楽しみながら、授業の場や日常生活での、工夫をすることでよりその能力体力の増強を図らせる。 |

| 月 | 速度（単元・章・項） | 指導内容（項目／活動） | 評価方法等 | 評価のポイント |
|----|-----------------------|------------------------------------|--|------------------------|
| 4 | ・オリエンテーション ・新体力テスト | ・授業の内容と諸注意を理解する・新体力テスト実施・自分の体力を知る。 | 「関心・意欲・態度」「技能・表現」「知識・理解」「思考・判断」の各観点に基づき、下記の点により総合的に評価する。 | グループのまとまり 正確性 |
| 5 | ・体ほぐしと 香里丘高校体操 | ・香里丘高校体操ができるように練習する。 ・ストレッチ中心 | 個人（理解度） | |
| 6 | ・跳び箱 | ・基本的な跳び方 ・開脚跳び ・閉脚跳び | ・スキルテスト | 参加意欲 技能の修得度 |
| 7 | ・水泳 | ・台上転回 ・跳び乗り | | |
| 8 | | ・水泳 平泳ぎ | 記録測定 | 記録・泳法 |
| 9 | ・水泳 | ・総合練習 | 記録測定 | 記録・泳法 |
| 10 | ・バスケットボール | ・パス・キャッチ・シュートの技能習得 | | 個々の技の正確性 技と技の連続性 |
| 11 | | ・2対1を初め簡単な攻めと守りを理解し、技能を身につける。 | ・スキルテスト | |
| 12 | | ・3対3 ・4対4 ・ゲーム | ・フリースロー ・ハンドリング | 同年代の記録との比較 |
| 1 | 持久走 | ・諸注意 健康管理 ・試走 ・タイムトライアル | 1 2 分間走 距離走 | 自己の生活における健康管理・維持の方法の習得 |
| 2 | | | | ペースの維持 |
| 3 | | | | |

体育（2年ダンス）

| 教科 | 科目 | 単位数 | 指導学年 | 教科書名 | 副教材名等 |
|----------|-------------|-----|------|-----------------|-------|
| 保健 体育 | 体育 (ダンス) | 1 | 2年 | 現代保健体育 (大修館) | |

| | |
|----------------------------------|---|
| 到達目標 | 心と身体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通じて、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。 |
| 到達目標に向けての具体的な取組 【指導上の留意点】 | 身体ほぐしから始まり、運動を通じて体の調子を整えるとともに、基礎体力の向上を図る。新体力テストを実施し、生徒の基礎体力を知らせる。その結果、各運動種目の特性を理解させ楽しみながら、授業の場や日常生活での、工夫をすることでよりその能力体力の増強を図らせる。 |

| 月 | 速度（単元・章・項） | 指導内容（項目／活動） | 評価方法等 | 評価のポイント |
|----|---------------|-----------------------------------|---|-------------------|
| 4 | オリエンテーション | 新体力テスト実施 | 「関心・意欲・態度」「技能・表現」「知識・理解」「思考・判断」の各観点に基づき、下記の点により総合的に評価する。 受講状況の観察 実技テスト グループでの取り組み姿勢を観察 | 関心、意欲、態度 運動の技能 |
| 5 | 体ほぐし運動 ダンス | 創作のための基本の動き | | |
| 6 | 創作活動 | 基本の動きテスト | | |
| 7 | | オリエンテーション グループの決定 テーマ、内容の決定 | | |
| 8 | | 今年の作品の鑑賞 | | 意欲、態度、協力 |
| 9 | ダンス 創作 | 創作活動 グループ活動 | グループでの取り組み姿勢を観察 | 意欲、態度、協力 |
| 10 | | | | |
| 11 | | 中間発表 | 実技テスト | 途中までの完成度 |
| 12 | | 中間発表をふまえての作品の見直し | | 表現内容、技能 |
| 1 | | 創作活動 グループ活動 | グループでの取り組み姿勢を観察 | 意欲、態度、協力 |
| 2 | | 発表 | 実技テスト | 表現内容、技能 |
| 3 | | 鑑賞 | ビデオによる | |

保健（2年）

| 教科 | 科目 | 単位数 | 指導学年 | 教科書名 | 副教材名等 |
|------|----|-----|------|-----------------|--------------|
| 保健体育 | 保健 | 1 | 2年 | 現代保健体育 （大修館） | 現代保健ノート（大修館） |

| | |
|----------------------------------|---|
| 到達目標 | 個人の健康は、集団の健康問題との関わりを抜きにして考えられないので、心の健康・薬物乱用・喫煙問題・生活習慣病・性成熟等の内容を学びながら、自分自身で自分の身を守ることが出来るように指導する。 |
| 到達目標に向けての具体的な取組 【指導上の留意点】 | 講義だけでなく視聴覚教材やその他の器具の利用で、内容がより理解しやすいようにする。また1年時に於いては、生徒にテーマを与えレポート作成をさせ、2年時に於いてはそれを発展させ、グループ別に研究・発表をさせることにより、日常生活でおこる種々の問題点に対して興味関心を持たせ、自ら学習させる力を養う。 |

| 月 | 速度（単元・章・項） | 指導内容（項目／活動） | 評価方法等 | 評価のポイント |
|-----------------------|--|--|--------------------------|--------------------|
| 4 5 6 7 8 | 「生涯を通じる健康」 1, 生涯の各段階における健康 ①思春期と健康 ②結婚生活と健康 ③加齢と健康 | 思春期に於ける心身の発達と健康 性意識と性行動の選択 健康な結婚生活 妊娠・出産と健康 家族計画と人工妊娠中絶 加齢に伴う心身の変化と健康 高齢者のための社会的取り組み | ノート観察 期末テスト | 関心・意欲・態度 ・知識・理解 |
| 9 10 11 12 | 2, 保健・医療制度と地域の保健・医療機関の活用 「社会生活と健康」 1, 環境と健康 ①環境の汚染と健康 ②環境と健康の対策 2, 環境と食品の健康 | わが国の保健医療制度 地域の健康・医療機関の活用 大気汚染と健康 水質汚濁と健康 土壌汚染と健康 広がる環境汚染 環境衛生にかかわる活動 食品保健にかかわる活動 食品の保持増進のための環境と食品の保健 | ノート観察 期末テスト | 関心・意欲・態度 ・知識・理解 |
| 1 2 3 | 3, 労働と健康 | 職業病や労働災害と健康 働く人の健康の保持増進 | ノート観察 期末テスト レポート提出 | 関心・意欲・態度 ・知識・理解 |

教科・科目別年間指導計画

| | | | | | |
|----|------|-----|------|------------|-----------------------------|
| 教科 | 科目 | 単位数 | 指導学年 | 教科書名 | 副教材 |
| 情報 | 情報 C | 2 | 2年 | 実教「最新情報 C」 | 実教 「30時間でマスターoffice2010」 |

| | |
|--------------------------------|--|
| 到達目標 | 情報機器に慣れ、基本的なアプリケーションを使いこなせ、また情報の取り込みや、伝達方法、セキュリティ対策など情報の基礎がおおまかに理解できる能力をつける。 |
| 到達目標に向けての具体的な取り組み 【指導上の留意点】 | アプリケーションソフトを使って、コンピュータを利用しながら、便利な使い方などの紹介を通じて、使いこなしていく。 実習を行い、自分で色々な経験を積み重ねることの大事さを理解させ、常に進歩していく機器や、ソフトを使いこなす能力を、付けさせることを目標にする。 |

| 月 | 速度 (単元・章・項) | 指導内容 (項目/活動) | 評価方法 | 評価のポイント |
|---------------------|--|---|--------------------------------------|---|
| 4 5 6 7 | 情報の管理と保護 第1編メディアと伝達 A) コミュニケーションとメディア B) ネットワークを利用したコミュニケーション C) コミュニケーションにおけるモラル 1学期期末試験 | ワープロ、表計算ソフト等のアプリケーションを使いながら情報とは何か、また情報のデジタル化を学習する | 課題の内容を評価する 授業への関心、意欲、態度を評価する。 | 提出の有無、内容の程度、態度を総合判定する。 課題に主体的に取り組んでいるかを評価する。 |
| 9 10 11 12 | パワーポイントで課題作成 課題発表 第3編情報化の光と影 A) 流通形態の変化 B) 働き方の変化 C) コミュニケーションの形態の変化 学期末試験 | これまで学んできたスキルを生かしつつ、プレゼンテーションソフトを用い、テーマに即した課題を作成する。 班ごとにクラス全体に発表する。 | 実習により、情報がうまく伝わったかを観点別判断 | 情報をどのようにして伝えるか、発表内容と発表態度と説得力、発表外の生徒に5段階で判断させる(相互判定)、これを点数化する。 |
| 1 2 3 | ネットワークの仕組み 第2編 A) 個人情報の管理 B) 知的財産権の保護 C) 個人の責任 学年末試験 | HTMLの原理を演習を含めた形で学習し、情報通信の仕組みをホームページを使いながら学習する 情報を発信したり、取り込んだりするときの注意事項 | 学校紹介 HPの提出とその内容 | HPの各ページが適切に構成されていること、閲覧者に配慮した構造になっていることを評価。 |